

令和7年度 学校努力点全体計画

1 研究主題

わくわくしながら課題を解決しよう！

2 研究のねらい

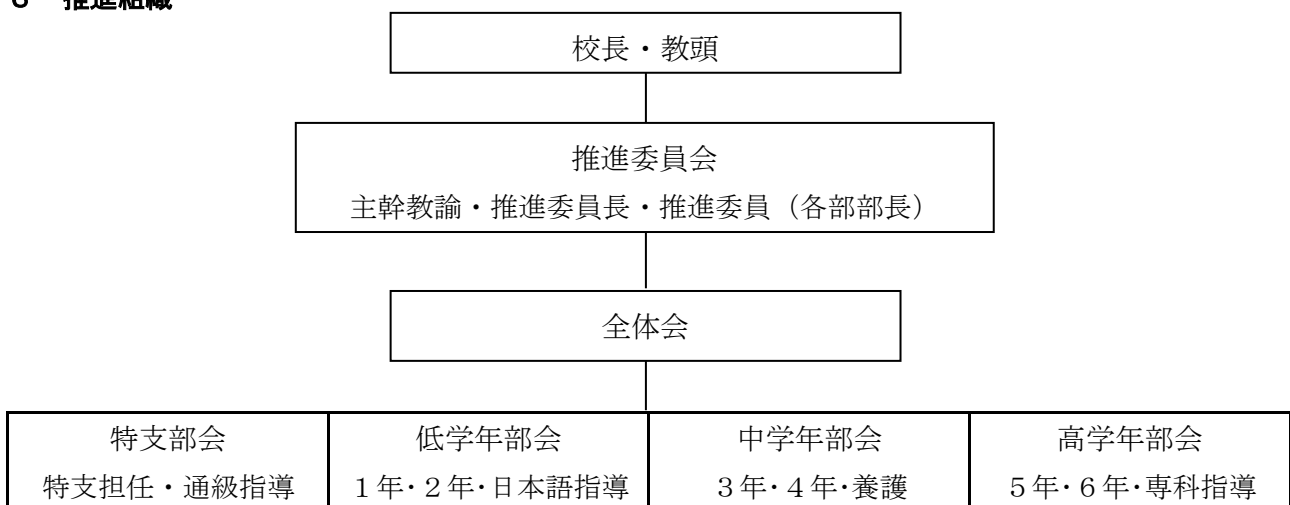
昨年度は、「ナゴヤ学びのコンパス」に示された、重視したい3つの学びの姿「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」を目指し、「わくわくしながら課題を解決しよう！」というテーマのもと、生活科及び総合的な学習の時間において、探究的な学習に重点を置いて研究を進めた。

特に、課題の設定（「ふれる」→「問いの設定」）に焦点を当て、学習対象との関わり方や出合わせ方の手立て、自分事化した「問い」を設定できるような手立てを工夫することによって、児童が自ら問いを設定することができるようにした。そして、児童は1年をかけて、探究的な学習のサイクルを回しながら、問いを解決する活動に取り組んだ。

12月に実施した身に付いた力に関する児童対象の意識調査では、「生活や学習の中から、疑問を発見する力」や「自分のこととして、問いをもつ力」について、8割強の児童が「できた」「まあまあできた」と回答した。また、「自分でめあてを決めて実行できた」「質問することができた」「資料や図の配置を考えてまとめることができた」など、成果を感じられた児童がいた。一方で、様々な課題も見えてきた。その中でも、計画を立てること自体や、立てた後に計画通りに実行することに難しさを感じる児童が複数いた。また、毎時の活動やプロジェクト全体を振り返る場面において、何を書けばよいのか分からなかったり、振り返りの観点がずれてしまったりする児童もいた。

そこで、今年度は、見通しをもって学習を進めるために、企画書作成と探究活動における毎時間の振り返り、プロジェクト全体の振り返りに焦点を当て、企画書シートや振り返りの仕方についての手立てを工夫することとする。自ら計画を立て活動し、その時間の最後には、できたことやできなかったこと、その理由を振り返り、次時につなげていくことは、主体的に学習に取り組む態度の育成につながることを期待される。さらに、今年度は、より自分事化した問いや自分に実践できるゴールを設定することによって、調べ学習に留まらないように留意しながら、目指す児童に迫りたい。

3 推進組織



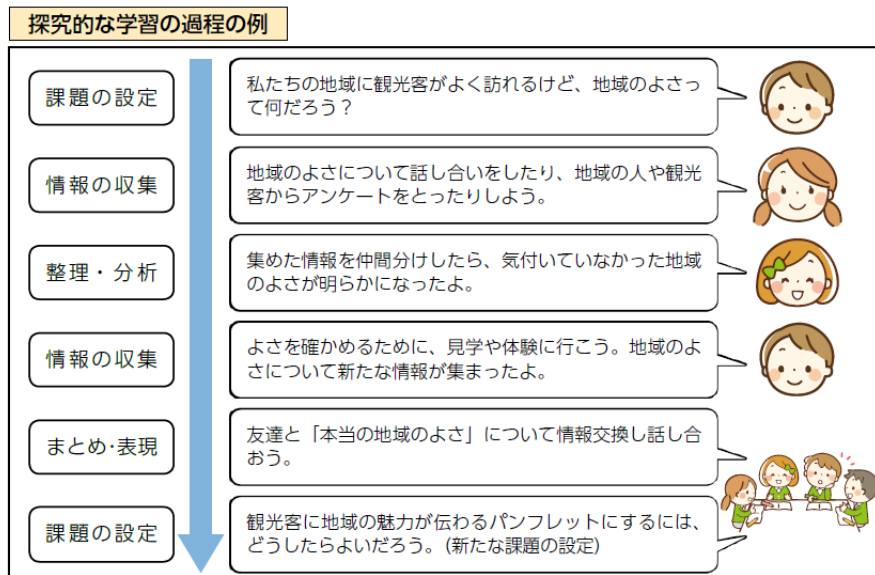
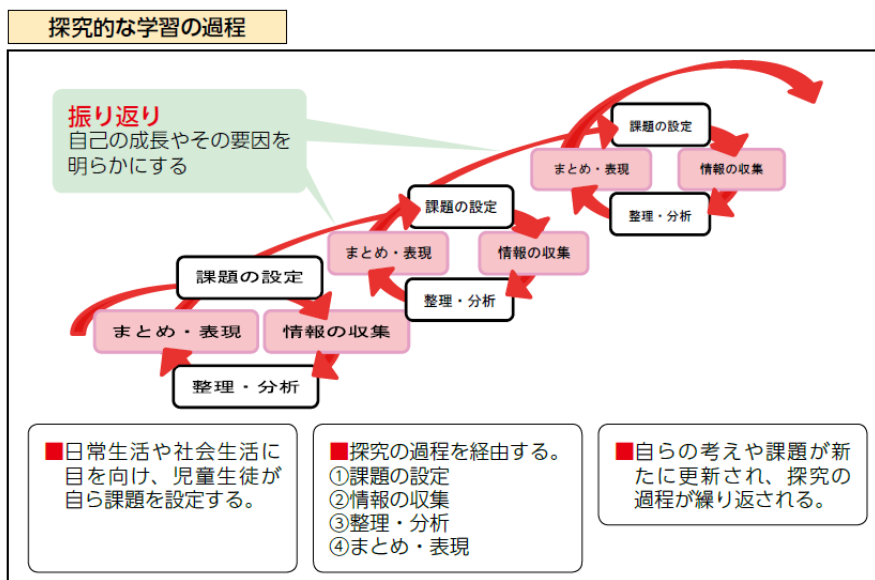
4 年間計画

月	日	曜	主な内容	
4	10	木	全体会 学年会	今年度の方針・計画決定 <u>大テーマの思案、カリマネの作成</u> Share→023 教職員研修→03 努力点→R7 〔 →大テーマ・デザインシート(～4/16) 〔 →R07 各学年カリキュラム(～4/21)
	17	木	努力点部会①	大テーマ検討、各学年の方向性 <u>デザインシートの立案(～5/25)</u> Share→023 教職員研修→03 努力点→R7→大テーマ・デザインシート(～5/25)
5	26	月	努力点部会②	単元計画（デザインシート）の検討
7	16	水	努力点推進委員会①	各部会の状況報告、中間報告について
7	17	木	努力点部会③	1 学期の振り返り、2 学期の計画 中間報告書作成〈各学年〉(～9/19)
9	22	月	努力点部会④	状況報告 <u>※公開授業日の決定(10/4～12/19)</u>
10	2	木	全体会（中間報告）	進捗状況の確認
10/4～12/19			努力点部会⑤ 努力点部会⑥	公開授業後の事後検討、2 学期の振り返り、3 学期の計画
12	22	月	努力点推進委員会②	各部会の状況報告、最終報告について 最終報告書作成〈各学年〉(～2/13)
2	13	金	努力点推進委員会③	今年度の反省、次年度について
2	26	木	全体会（最終報告）	1 年間の振り返り
3	5	木	職員会	次年度研究主題・推進計画の提案

※ 努力点だよりは、年 2 回発行予定。

5 探究的な学習とは

探究的な学習とは、基本的には「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」など、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていくことである。これは、段階的な学びではなく、循環的な学びであるので、基本的な学習サイクルを必ずしも順番通りに進める必要はない。明らかになった考えや意見などをまとめ、表現し、そこからまた新たな課題を見つけて問題を解決したり、最初に知っている情報をまず整理・分析してみて、足りない情報があると気付いたら、それを収集したりすることも考えられる。また、研究ではないので、立派な成果を求めるのではなく、この4つのプロセスを踏むことを重視する。学びを「探究モード」に変革していくことがこれからの社会で求められている。



生活科における「探究」とは、総合の4つのプロセスを踏むというよりも、子どもたちの思いや願いを大事にして、それを実現していくことに力点が置かれる。例えば、「もっときれいな花を咲かせたい」から栽培活動に取り組んだり、「おもちゃをもっと速く走るように工夫、改善したい」からおもちゃ作りに没頭したりすることが大事である。生活科は、体験そのものが重視されるが、その体験で得たものを言語化することによって、より確かな認識に至ることが重要なポイントである。

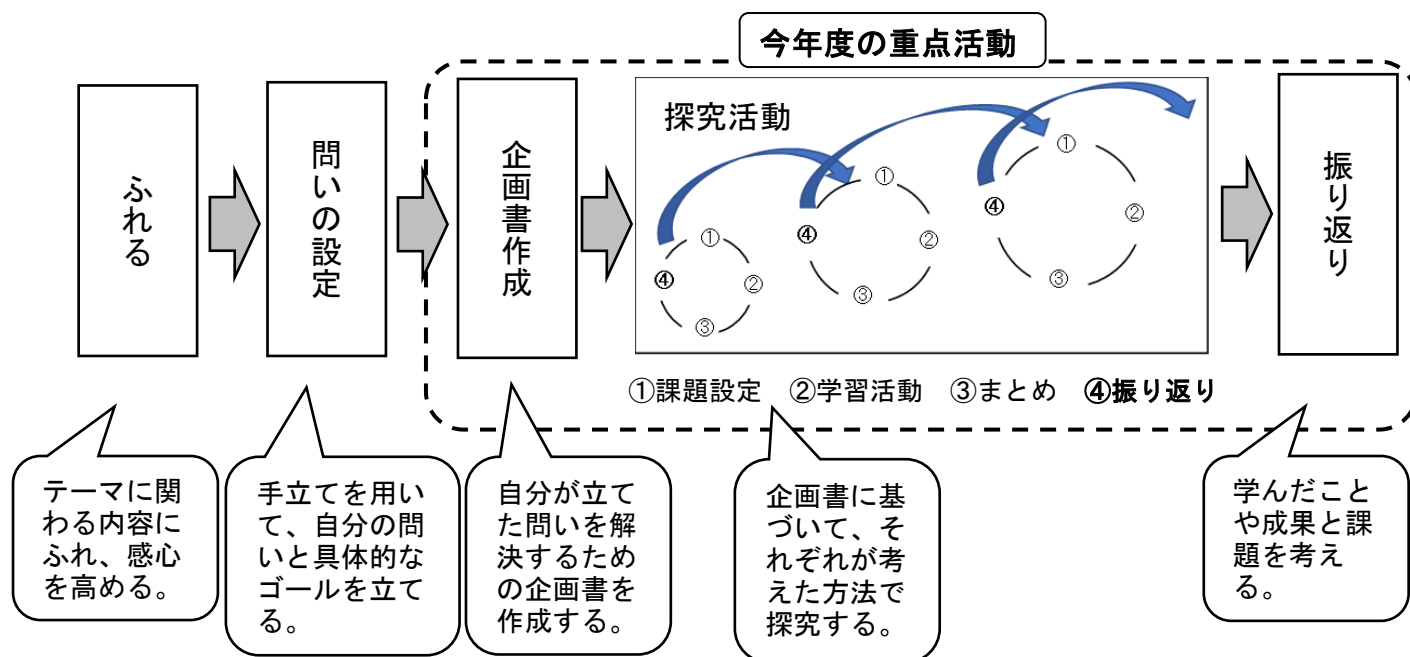
6 研究方法と内容

(1) 福春小における探究的な学習について

1・2年生は生活科、3～6年生は総合的な学習の時間において、探究的な学習の時間を「クエストタイム」と呼ぶ。各学年の内容は、1・2年生は生活科の単元、3年生「環境」、4年生「福祉」、5年生「郷土」、6年生「キャリア」とする。

企画書（わくわくマップ）と学習履歴図については、1・2年生、3～6年生でそれぞれ統一のものを、児童の実態に応じて、各学年で変更して使用する。＜資料1・2＞

【探究的な学習の流れ（R7 ver）】



目安	1 学期 ～ 9 月	～ 2 学期 3 学期
----	------------	-------------

【探究的な学習を通して育成を目指す資質・能力】

つきたい力	具体的な姿
発見する力	- 生活や学習の中から疑問を発見することができる。 - 自分ごと化した問いをもつことができる。
計画する力	- 解決のための見通しやゴールをもつことができる。 - 解決のための計画を立てることができる。
探究する力	- 必要な情報を集めることができる（低学年） - 集めた情報を分類し、整理することができる。（中学年） - 集めた情報を整理し、情報と情報の関係を考えることができる。（高学年）
ふり返る力	学んだことを生活や学習に生かすことができる。
表現する力	伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる。

(2) 日常実践

週1回、火曜日の朝の時間に「アドベンチャータイム」を設定し、10分程度、心理的安全性を高めるような活動を行う。活動例として、「もしもしかめよ」などの手遊びや「落ーちた、落ちた」などの定番ゲーム、ペアトークなど、手軽に取り組めるものから、「学級ゲーム&アクティビティ 100」【2013 ナツメ社】に記載されているアクティビティや構成的エンカウンターエクササイズを行う。いずれの活動においても、重要なのは、「失敗してもよい」「自分が認められる」と思えるようにすることであり、活動して終わりではなく、振り返る時間を必ず設けるようにする。